

富山県の様相

島田美佐子（財団法人富山県文化振興財団）

木製塔婆の出土事例

中世前半には大型木製塔婆の出土事例はなく、小型の「卒塔婆」・「塔婆」として報告されているものが数例ある。南砺市梅原胡摩堂遺跡(①)出土例は、両面に金剛界・胎藏界を表す梵字が墨書され、同市蛇喰^{じゃばみ} A 遺跡(②)では、両面に同書式で光明真言の梵字が墨書されたものが2点出土している。

大型卒塔婆の出土事例は、中世後半ではあるが、黒部市堀切遺跡 F 区(③) SD 2 から出土している。卒塔婆は 8 点あり、最大のものの残存長は127cmである。頭部形状は圭頭状と五輪塔状があり、表面に梵字と墨書が認められる。この他には笹塔婆や梵字の残る用途不明木製品、柿経（約 2 万点）が出土している。共伴した柿経は、現在整理中であるが、主に理趣経と法華経が記されている。

石塔の出現と展開

石塔には、五輪塔・宝篋印塔・層塔・板石塔婆（板碑）・一石五輪塔がある。

五輪塔は、中世石造物の中で数量が一番多く、在銘資料には14世紀代の資料がある。鎌倉期に出現後、南北朝時代に盛行、16世紀代には衰退したと考えられる。宝篋印塔は、数量が比較的少なく、関西形式が主体形態で、造立が本格化するのには南北朝期と推定される。層塔は、完形資料は無く、形態から14・15世紀代のものが多い。板石塔婆には、県内の石造物の在銘資料の中で最も古いものがある。オベリスク状の形態が多く、これは16世紀には小型品となる。種子と五輪図形を刻んだものが半々で、種子は、「バン」、「キリーク」が多い。一石五輪塔は、15～16世紀に盛行したと推定する。

本来石塔は、起塔の功德を信じて造る供養塔であったはずが、16世紀くらいから本来の意味に変化が生じ、17世紀前半には石の墓標に影響を与え、石塔風の墓標が造られるようになる。供養塔から墓標への転換を示す事例としては、氷見市脇方谷^{わきがたやちで}内出中世墓(④)、上市町黒川上山墓跡^{くろかわうえやま}(⑤)がある。

中世前半の墳墓

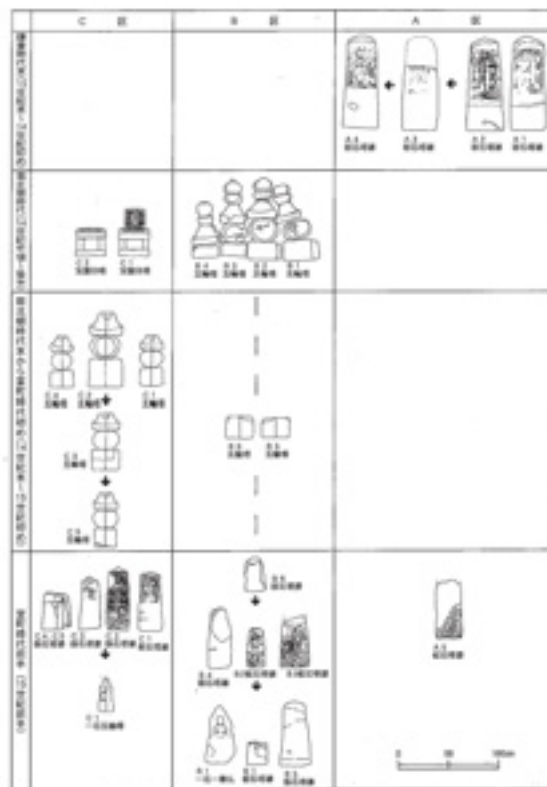
富山県における中世前半の墓の様相は、平野部の集落遺跡内で検出されるものと、丘陵部の寺院など宗教関連施設に伴うもの、単独出土で性格が不明なものがある。集落内での検出例は、南砺市梅原胡摩堂遺跡、高岡市中保 B 遺跡(⑥)、富山市友杉遺跡(⑦)などがある。これらは長方形を呈する土壙墓で、中保 B 遺跡 2 基・友杉遺跡 1 基は共に木棺が遺存している。この他にも、中世前半の集落では副葬品と想定する遺物の出土状況から、土壙墓と推定される遺構が散発的に検出される例がある。寺院など宗教関連施設に伴う例は、南砺市若宮遺跡、香城寺惣堂遺跡(⑧)、黒川上山墓跡などがあり、方形石組墓や墳丘墓などマウンドを伴うものが多い。黒川上山墓跡では、12世紀後半から15世紀初頭までの造墓活動の変遷を追うことができ、8割以上が火葬と推定されている。特殊例としては、長方形の石組の主体部をもつ下新川郡朝日町の柳田古墓(⑨)がある。その後、集落遺跡の一端に集団墓地と見られる土壙墓群が造られるようになるのは、14世紀～15世紀頃である。

火葬の普及

寺院など宗教関連施設では、多くの墳墓において火葬骨が蔵骨器に埋納されており、火葬の導入は早く、12世紀後半から認められる。中世前半の集落における調査例では、未だ土葬と推定する埋葬例が多く、その検出数から墓に埋葬されること自体が特別な身分であったことが窺える。中世後半になると、集団墓地化した土壙墓が増加することから、埋葬の習慣が一般へ普及したと考える。火葬の一般集落への普及は、現在の事例からは、火葬場と推定される遺構が検出されている富山市金屋南遺跡(⑩)や小矢部市白谷岡ノ城北遺跡(⑪)などが示すように15世紀となると推定する。



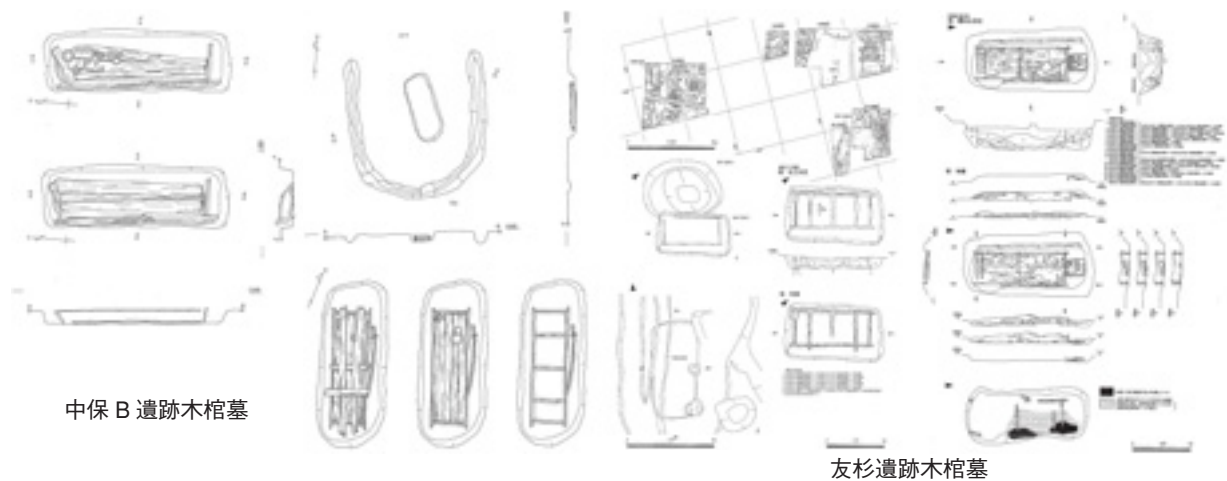
堀切遺跡 F 区 SD 2 出土関連木製品



脇方谷内出中世墓変遷推定図

種 類	年 次 在 銘 資 料	形態から時期が判る資料
五輪塔	黒部市荻生の地輪 嘉歴 4 (1329) 年 富山市大法寺の地輪 貞和 2 (1346) 年 富山市法蔵寺の地輪 応安 3 (1370) 年	福岡町西明寺塚 2 基盛土上13世紀代。 上市町黒川上山 2 号墓 13世紀前半 南砺市池尻遺跡 14世紀代 氷見市藪田薬師中世墓 15世紀前半から後半
宝篋印塔		高岡市蓮花寺 鎌倉期 氷見市宇波神社 14世紀 氷見市藪田薬師中世墓 15世紀
層塔	富山市友坂熊野神社例 康永 2 (1343) 年	
板石塔婆	射水市本江神明社 文永 4 (1267) 年 氷見市髪塚盛土上 貞和 3 (1347) 年 南砺市鍛冶神明社 大永 6 (1526) 年 富山市本江経塚 享禄 4 (1531) 年 氷見市藤井家墓地例、氷見市長坂光西寺墓地例 天文 3 (1534) 年 富山市上栄例 天文24 (1555) 年 氷見市石動山平沢道例 天正 5 (1577) 年	射水市 (旧大島町) 大日寺 鎌倉期 高岡市永願寺 鎌倉時代 氷見市脇方谷内出中世墓 オベリスク状の大型品、鎌倉末期
一石五輪塔	立山町芦峯寺 天正14 (1586) 年	

富山県の石塔



中保 B 遺跡木棺墓

友杉遺跡木棺墓



黒川上山墓跡（中世墓群）遺構全体図



主要遺跡位置図

引用・参考文献

遺跡番号	出版年	書名	発行機関
	1994	中世北陸寺院と墓地	北陸中世土器研究会
	1996	飾る・遊ぶ・祈る	北陸中世土器研究会
	2000	中世北陸の石塔・石仏	北陸中世土器研究会
	2006	中世墓資料集成－北陸編－	中世墓資料集成研究会
	1976	富山の石造美術	京田良志 巧玄社
③	2006	堀切遺跡 F 区発掘調査報告書	黒部市教育委員会
④	2000	脇方谷内出中世墓	氷見市教育委員会
⑥	2002	中保 B 遺跡調査報告	高岡市教育委員会
⑫	1991	臼谷岡ノ城北遺跡発掘調査概要	小矢部市教育委員会
		梅原加賀坊・久戸遺跡・梅原安丸遺跡・田尻遺跡発掘調査報告	(財)富山県文化振興財団
	2006	下老子笹川遺跡発掘調査報告	(財)富山県文化振興財団
②	1990	梅原胡摩堂遺跡発掘調査報告（遺構編）	(財)富山県文化振興財団
⑧	1993	医王山文化調査報告「医王は語る」若宮遺跡 香城寺惣堂遺跡	医王山文化調査委員会
①	1998	蛇喰 A 遺跡	井口村教育委員会
⑩	2007	富山市金屋南遺跡発掘調査報告書Ⅳ	富山市教育委員会
⑦	2010	友杉遺跡発掘調査報告	(財)富山県文化振興財団
	1992	吉倉 A 遺跡	富山県教育委員会
	1992・1993	吉倉 B 遺跡	富山県教育委員会
	1996	富山県婦中町堀 I 遺跡	婦中町教育委員会
⑪	2003	中名Ⅰ・Ⅴ遺跡発掘調査報告	(財)富山県文化振興財団
	2002	清水島Ⅱ遺跡・中名Ⅱ遺跡・持田Ⅰ遺跡	(財)富山県文化振興財団
⑤	2005	富山県上市町黒川遺跡群発掘調査報告書	上市町教育委員会
⑨	1974	富山県柳田遺跡・柳田古墓緊急発掘調査概報	富山県教育委員会